

広報けいせい

8月
2026

暑い夏がやってきた
楽しいことも沢山あった

プール遊びで涼んで
バーベキューで楽しいひととき

特集
送迎サービス開始

横浜の課題であった「駅から遠い」
送迎サービスにより解消です

Keisei-fukushisai

社会福祉法人
恵正福祉会



この冊子は法人ホームページのブログ「広報けいせい」の記事を基に作成したものです。
左のQRコードからブログをご覧いただけます

プール遊びに 自慢の作品

とうかいどう保育園

とうかいどう保育園では、今年も例年の夏と変わらず、お友だちが大好きなプール遊びを満喫しています。連日の暑さに負けず、水の中に飛び込んだお友だちの元気いっぱいな歓声と笑顔が園庭いっぱいに広がり、夏の風物詩ともいえる賑やかな風景が戻ってきました。

また、プールで体を動かして遊ぶだけでなく、みんなが心を込めて手作りした船の作品を水面に浮かべて遊ぶ時間も設けられました。自分たちで形や色を工夫して作り上げた、世界にひとつだけの船がゆらゆらと水の上に浮かぶと、お友だちは目を輝かせながら夢中になってその様子を見つめていました。自分で作った作品が実際に浮かぶ面白さや達成感を味わうことができ、表現する楽しさを感じられる貴重な体験となりました。

工夫を凝らした活動を通して、お友だちみんなが夏の特別な思い出をたくさん作ることができ、心から満足できた素晴らしい一日となったようです。



世界に一つしかない自分だけの船。どんな造船所でも作ることができません。とってもかっこいいですね!!

お友だちの想像力は豊です。きっと大海原を駆け巡る姿なのかな？



今年は納涼祭に代わって バーベキュー ゆる～く楽しみました



ゆるくバーベキュー グループホームりゅうりゅう

グループホームりゅうりゅうでは、今年度の夏のイベントとして、恒例の納涼会に代わり敷地内でバーベキューを開催しました。

人気アニメ『ゆるキャン△』のような、気取らず心地よいリラックスした雰囲気の中、ご利用者の皆さまも職員も一緒に「楽しく、ゆる～く」特別な時間を満喫しました。当日は目にも鮮やかなたくさんの食材が並び、バラエティ豊富な飲み物も用意され、皆でお腹いっぱい味わいながら笑顔あふれる憩いのひとときとなりました。

いつもの納涼会とはひと味違う親睦の機会となりましたが、夏らしい美味しい思い出を全員で共有できる素晴らしい一日となりました。

ご利用者の皆様にとって明日からのモチベーションになっていただければ本望です!!



安心のチェック体制 作業完了後のダブルチェック

就労移行支援わーくさぽーと恵の杜



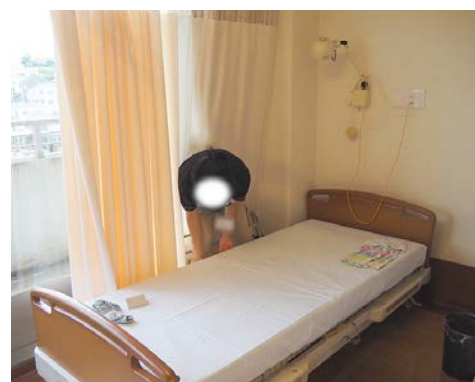
就労移行支援事業所わーくさぽーと恵の杜の作業現場を訪問しました。わーくさぽーと恵の杜では介護老人保健施設恵の杜にてリネン交換作業に取り組んでいます。

作業現場における大きな特徴は、手厚いサポートとチェック体制です。利用者が作業を終えた後には、必ず職員による事後チェックが行われます。確認した内容は必要に応じて利用者へ丁寧にフィードバックされるため、作業上の留意点のほか、改善が必要な課題点が明確になります。

このような仕組みがあることで、利用者はミスを恐れずに安心して作業へ集中することができます。

また、自分の得意な部分や課題を具体的に把握しながら日々の業務に取り組めるため、着実なスキルアップや作業精度の向上、ひいては就職に向けた自信の獲得につながっています。

今日も一所懸命お仕事する姿が見られて安心しました。



介護老人保健施設
恵の杜

コミュニケーションを通して
日々の体調管理

介護老人保健施設恵の杜の1階は、定員12床のユニットとなっており、お一人おひとりに寄り添った温かなケアを提供しています。

先日1階をお伺いした際には、ユニットの多くのご利用者がリビングで過ごされていました。しばらくユニットにいと、看護スタッフがご利用者に優しく声をかけ、穏やかにお話をされている姿が見られました。

会話を通じて、日々の微かな体調の変化や小さな異変を見逃さないよう、丁寧な体調チェックを行っていたのだと感じられます。特に夏の暑い時期は空調が管理されているとはいえ熱中症などには気をつけていかなければなりません。こうした何気ない日々のコミュニケーションこそが、安心できる生活を支える大切な基盤となってい流のだと思います。

これからも恵の杜では、介護や看護をはじめとする各専門部門がしっかりと連携を取り合い、ご利用者が毎日を笑顔で健やかに過ごしていただけるよう、高品質でぬくもりのあるサービスを提供してまいります。



カラフルなブロック
綺麗に並べられていますね
放課後等デイサービスえがお



放課後等デイサービスえがおでの活動の様子をご紹介します。

施設に到着すると、お友だちが綺麗に整然と並べられたブロックの周りに集まり、思い思いの時間を過ごしていました。

完成した素晴らしい並びを静かにじっと見つめてその美しさを楽しんでいるお友だちもいれば、真剣な表情で次のブロックを手に取り、その続きをそっと並べようと挑戦しているお友だちの姿も見られました。

誰一人として同じ遊び方に捉われないことなく、それぞれが自分の心地よいペースやアイデアで空間と時間を

楽しんでいる様子がとても印象的でした。お友だち一人ひとりの個性が光る、温かく穏やかな時間が流れていました。

本日もボランティアの方がお手伝いに駆けつけてくださり、お友だちの活動を優しく温かく見守りながらサポートしてくださいました。いつも変わらぬ温かいご支援とご協力に、スタッフ一同、心より感謝申し上げます。

まだまだ暑い季節は続きそうですが、放課後等デイサービスえがおでも熱中症対策をしながら楽しく安全安心に過ごせるよう職員一同努力しています。



とごしの杜保育園
夏祭りを開催しました

とごしの杜保育園の今年の夏祭りは、朝から子どもたちの笑い声があふれる一日となりました。午前中は幼児さんがお店屋さんごっこを開き、乳児さんがお客さんとして遊

びに来てくれました。

こすもす組さんは「カフェ」「くじびき」「わたあめやさん」を担当しました。

ゆり組さんは大好きなポケモン



のお店をはじめ、「魚つり」「ボール当て」「ポケポケパニック」「ピンボールやさん」を担当。

さくら組さんは本格的なお化け屋敷に挑戦。あまりの本格さに思わず泣いてしまう子も。

おやつには行事食として、ベビークステラとポップコーンを食べました。

夕方にはホールに集まり、みんなで盆踊りを踊りました。子どもたちの楽しそうな表情がたくさん見られ、夏の思い出がまたひとつ増えた一日となりました。



特集

送迎サービス開始 利用者・関係者へのシャトル便

必要とされる方へのサポートを行います。
リハビリを通して、朝の子どもたちの居場所として

社会福祉法人恵正福祉会は、地域に根ざした福祉サービスの提供を目指し、横浜市瀬谷区および東京都品川区を中心に多様な社会福祉事業を展開してまいりました。利用される一人ひとりが豊かで安心した生活を送ることができるよう、質の高い介護・福祉サービスの充実に日々努めております。

しかしながら、特に瀬谷区に所在する事業所群においては、長年にわたり直面していた大きな地域課題がありました。それは「最寄り駅から事業所までの距離が離れて

おり、交通の利便性が必ずしも十分ではない」というアクセスの問題です。徒歩での移動には負担が大きく、路線バスの運行時間や本数の制限もあり、ご利用者様やそのご家族、さらには関係者の皆様から「移動が大変である」というお声をいただくことも少なくありませんでした。

福祉サービスにおいて、通いやすさやアクセスの良さは利用のしやすさに直結する非常に重要な要素であり、この交通アクセス上の課題をいかに解決するかは当法人にとっても長年の重要なテーマでし



た。

そこで恵正福祉会では、この「駅から離れている」という物理的な課題を根本から改善・解消し、誰もがよりスムーズに各施設へ足を運べ

る環境を整えるため、新たな取り組みとして専用のシャトル便による送迎サービスの運行を開始いたしました。

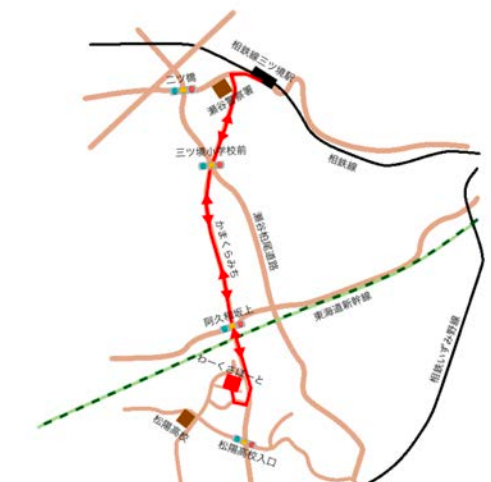
本送迎サービスは、相鉄ずみ野線の「弥生台駅」および相鉄線「三ツ境駅」を起点とし、瀬谷区内に展開する当法人のほぼ全ての事業所を効率的に巡回・接続する形で運行しております。

対象となる施設には、地域のお年寄りのリハビリや生活を支える介護老人保健施設恵の杜、手厚い介護を提供する特別養護老人ホームめくみ、そして障害をお持ちの方々の自立と就労を支援する「わーくさぽーと」などが含まれます。このように区内の主要な事業所を網羅する送迎ネットワークを構築したこ

とで、これまでの移動に関する不便さを大幅に軽減することに成功いたしました。

この送迎シャトル便の導入により、これまでアクセスの面で来所をためらわれていた方や、移動に不安を抱えていたご利用者様・ご家族の負担が大きく和らぎました。弥生台および三ツ境駅から直接各施設へと移動できるようになったことで、移動に伴う身体的・精神的なストレスが大幅に緩和され、安心して施設をご利用いただける環境が整いつつあります。

現在はサービスを開始したばかりということもあり、運行時間帯や本数は一部の限られたスケジュールとなっておりますが、今後はご利用者様や関係者の皆様からのご意



見・ニーズを丁寧にお聞きしながら、運行便数の増発や時間帯の拡大など、さらなる運行体制の充実に努めてまいります。

恵正福祉会は、これからも「駅から遠い」という立地上の課題を克服したこの送迎サービスをいっそう発展させ、ご利用者様や地域の皆様にとって「より身近で通いやすい福祉施設」であり続けるよう、環境整備とサービスの向上に尽力してまいります。



ぽかぽか畑 障育連携(農福連携)

とうかいどう保育園

「農福連携」のオリジナル版である「障育連携」について以前ご紹介しましたが、今回はその後の畑の様子をお伝えします。

障害事業と保育園のお友達が連携して農作業をする「障育連携」、その後どうなったのでしょうか。

当法人の障がい者施設のご利用者が一所懸命に植え、保育園のお友だちがモニターを通して見守ってくれた苗は、順調に成長を続けているようです。

先日、とうかいどう保育園を訪れた際に、この畑が「ぽかぽか畑」と名付けられていることを知りました。その温かい名前の通り、太陽の光

をたっぷりと浴びてすくすくと育っています。

とうかいどう保育園ではこれを期に園でもプランターで植物を育てています。

お友だちが見守っている苗が立派に成長し、みんなで美味しい野菜を収穫できる日が来ることを心から楽しみにしています。



就労継続支援B型 わーくさぽーと阿久和 カーテンクリーニングをします



わーくさぽーと阿久和では、近隣の小学校よりカーテンクリーニングのお仕事をいただきました。

作業にあたり、利用者の方々はカーテンに付いている留め具をひとつずつ外すなど、細部まで丁寧に準備を進めています。皆様まさにクリーニングのプロフェッショナルとして、それぞれの役割を果たしながら着々と作業に取り組む姿がとても頼もしく感じられます。

「おお!今日はカーテンですね!!」と、話しかけるとちょっと自慢そうな顔をしていたような気がしました。

私たちはクリーニングという分野での仕事を通して、少しでも地域の皆様のお役に立ち、安心や快適さを届けられる存在でありたいと考えています。また、利用者の方々にとっても、わーくさぽーと阿久和での日々の作業や経験が大きな自信となり、将来の就労やステップアップへとしっかりつながっていくことを願っています。

これからも地域社会とのつながりを大切にしながら、利用者のお一人おひとりが生き生きと活躍し、成長できる環境づくりと丁寧な作業支援に努めて行きたいと思っています。今後ともわーくさぽーと阿久和をよろしくお願いします。

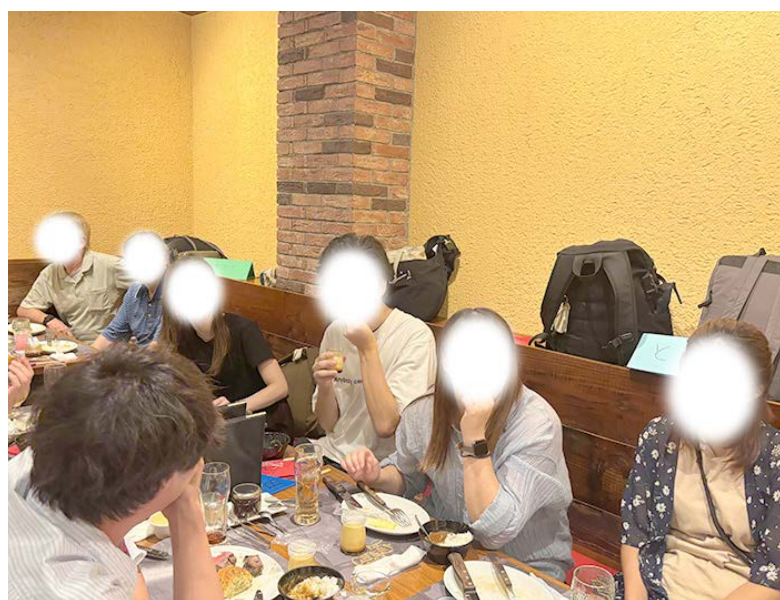


暑い夏は 暑気払いで!!

100名近くが参加する暑気払いを開催しました。

日頃はなかなか顔を合わせる機会が少ない他施設の職員とも活発に交流を図ることができ、貴重な時間となりました。

会場ではマイノリティゲームで大いに盛り上がり、美味しいお肉と飲み放題で心もお腹も満たされる大盛況のイベントとなりました。参加者同士の親睦が深まり、夏の暑さを吹き飛ばす素晴らしいひとときとなりました。



一人暮らし体験事業

障がいを抱える方々やそのご家族にとって、「親亡き後」にどこでどのように暮らしていくかという課題は、将来に向けた大きな不安や関心事の一つです。住み慣れた地域の中で、自分らしい生活を末永く安心して続けていくためには、早い段階から将来の生活像を描き、少しずつ準備を進めていくことが欠かせません。

こうした背景のもと、横浜市瀬谷区では「一人暮らし体験事業」が実施されています。本事業は、自宅や地域に存在する既存の施設・住宅などを活用し、障がいのある方に実際に一人暮らしを体験していただく取り組みです。実際に生活の場に身を置き、買い物や家事、日々の選択を自分で経験することで、「一人で暮らすとはどういうことか」「自分にはどんなサポートが必要なのか」を具体的かつ現実的にイメージできるようになります。単に生活のスキルを身につけるだけでなく、本人が希望する暮らしへの一歩を踏み出すための心の準備と環境づくりを、きめ細やかにサポートすることを目的としています。

社会福祉法人恵正福祉会におきましても、地域福祉を担う事業者として本事業の趣旨に強く賛同し、一



人でも多くの方が安心して挑戦できるお部屋をご提供できるよう、前向きに準備を重ねてまいりました。この度、当法人理事長の相澤隆二と瀬谷区との間で正式に契約を締結し、いよいよ具現化に向けた具体的な運用や体制整備のステップへと動き出しております。

すでに関心を寄せていただいている方もおり、見学もスタートしようとしているところです。実際に生活の様子をイメージしていただけるよう、受け入れ環境の更なる充実を図ってまいります。

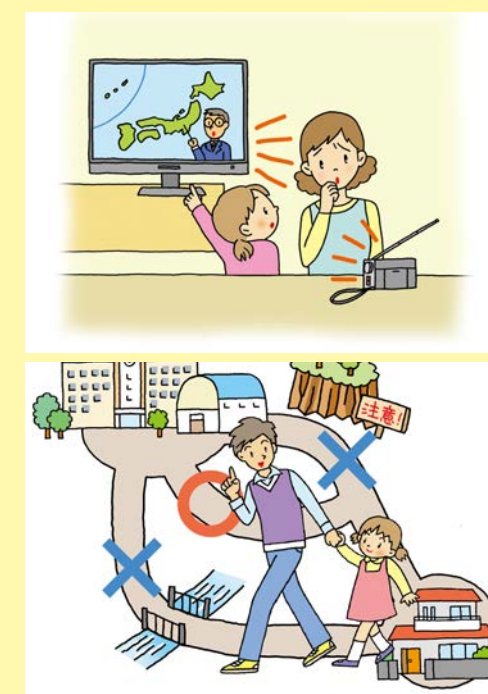
編集後記

最近、各地で自然災害のニュースが頻繁に報じられており、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

仕事柄、気象については常に高い関心を持っていますが、災害は予測が難しく、いつどこで私たちが直面してもおかしくありません。だからこそ、日頃からの万全な備えが極めて重要となります。

ハザードマップを活用して自宅や職場の危険度を把握し、避難場所や安全な避難経路をあらかじめ確認しておくことが命を守る第一歩です。また、非常用持ち出し袋や水・食料といった防災備蓄品の準備や点検など、今すぐにできる対策を一つひとつ進めたいものです。

日々の意識と事前の行動が、いざという時の安心と安全につながります。今一度、身の回りの防災対策を見直してみたいでしょうか。（M.O.）



イラスト：国土交通省



広報けいせい

Keisei-fukushikai

発行
社会福祉法人恵正福祉会
神奈川県横浜市瀬谷区
阿久和南3-29-1
info@keisei-fukushikai.com

